

# 安兵衛 だより

第1号 (令和5年12月8日発行)

発行所 / 武庸会  
〒957-0055 新発田市諏訪町 1-2-11  
イクネスはた1F 新発田市観光協会  
TEL 0254(26)6789  
FAX 0254(26)5031



News of Yasubei Horibe

堀部安兵衛を知る基本書

## 武庸会百周年記念誌



- 堀部安兵衛略伝
- 武庸会百年のあゆみ
- 武庸会の百年と新発田市剣道連盟
- 元禄赤穂事件ほか

問合せ：新発田市観光協会 TEL.0254(26)6789

# 12月14日に義士祭、長徳寺で堂々開催!



少年少女剣士による勝どき(令和4年、長徳寺の安兵衛墓前)



御免町小による安兵衛太鼓披露(令和4年、長徳寺)

12月14日の「義士祭」が近づいてきた。大正2(1913)年の武庸会(たけつねかい)発足以来、戦時下の一時期と戦後の講和条約締結までの間を除いて、連続として続けられてきた冬の「新発田の風物詩」である。

昭和40(1965)年には長徳寺での剣舞・詩吟や法要に加え、少年少女剣士たちによる義士行列(パレード)が始まって、義士祭に花を添えることになった。

今年の義士祭は、14時に開始され、市指定文化財の「義士堂」が公開され、「討ち入りそのの配布」(無料・先着200人)、「新発田ライオンズクラブ」(無料)、今年も除菌液や健康園プラン(無料・先着200人)も配られる。

長徳寺本堂では「安兵衛を偲ぶ会」として、日本剣道形演武に続き、詩吟、15時30分から法要、16時から御免町小学校安兵衛太鼓部による「安兵衛太鼓」披露、16時15分に少年少女剣士たちによる義士行列(パレード)が出發する。三之町からスタートし、17時20分頃に市役所で「討ち入り口上」。その後石川小路交差点から長徳寺までの予定だ。

他の大会が重なり、参加中学生は少なかったが、今年の義士祭ポスターのモデルになった白勢葵君も出場、活躍していた。

## 記念の剣道大会に約800人が参加

11月26日(日)、「堀部安兵衛武庸を偲ぶ」第53回新発田剣道優勝大会兼少年少女剣道大会が、参加者約800人で五十公野公園のサンビレッジで開かれた。

タイトルが長いのは訳がある。大会の始まりは50年ほど前である。阿賀北の剣道の底上げのため、新発田市剣道連盟が「二市北蒲の二市」郡剣道大会を主催、ほどこく豊栄が加わって「二市二郡剣道優勝大会」となり、大会創設者の佐藤毅範十九段の逝去を機に「堀部安兵衛武庸を偲ぶ剣道大会」と「少年少女剣道大会」を組み合わせ、今大会となったのである。新発田・聖龍・村上・中条・五泉・村松・豊栄はもちろん、新潟市からの参加もあった。



## 発行のことば

義の「心」を



武庸会会長 高橋正明

「安兵衛だより」発行にあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。

平成25年度の「武庸会百周年事業」、令和3年度の「堀部安兵衛生誕350年祭事業」を多くの方々のご尽力のお陰を得まして、嶋谷次郎八前会長の下、成功裡に終えましたこと、担当者の一人として、まずは厚く御礼申し上げます。

大事業を成し遂げて勇退した前会長から、歴史ある武庸会を引き継ぎ、あらためて身の引き締まる思いであります。

ご存じの通り、堀部安兵衛武庸はこの新発田に生まれ、高田馬場の助太刀で名を挙げ、吉良邸討ち入りで「義」を貫き通した偉人であります。

人としてあるべき道、「世のため人のため」を追い求めた生き方は現代でも見習うべきものであります。

私はその安兵衛の真つすぐな「心」と、同時に武庸会を設立した先人の「心」を継承すると同時に、その思いを広く発信したいと考えております。

もとより浅学非才な身でありますが、どうかご指導ご鞭撻をお願い致します。ご挨拶にかえさせていただきます。



# 堀部安兵衛は大英雄。義に生きてきた新発田人

堀部安兵衛武勇は寛文10(1670)年、新発田藩十市山弥次右衛門の嫡子として外ヶ輪(今のJA北越後新発田店)で生まれた。母は藩祖秀勝の娘糸姫と溝口四郎兵衛との娘である。したがって、安兵衛は藩祖の曾孫だ。

父は天和3(1683)年に辰巳櫓失火の責任をとって浪人しその後死亡。安兵衛は牛崎村長井家に嫁いだ姉の世話になり、19歳で江戸に出る。

江戸では堀内源左衛門道場で直心影流を学び、道場一の達人となった。

**高田馬場の助太刀で一挙に名を挙げた安兵衛**

元禄7(1694)年、堀内道場で知り合い叔父甥の契りを交わしていた菅野六郎左衛門の高田馬場の果し合いに「助太刀」し、3人を倒した。講談では18人倒したことになる。また、早稲田の酒屋小倉屋で「一升酒をおおった」との伝説もある。

この活躍を聞いた赤穂藩留守居役堀部弥兵衛から婿にと懇願

された。最初は中山家再興を理由に断った。しかし、弥兵衛の中山姓を称しても「の熱意にはだされて婿となり、赤穂藩浅野家に仕官した。なお安兵衛も弥兵衛も手田源氏佐々木氏の末裔である。

赤穂藩浅野家に仕官した安兵衛は元禄11(1698)年、尾張大納言光友室千代姫(家光の娘)逝去に際し、藩主浅野内匠頭長矩の代理として甲問使に選ばれ、大いに感激したという。

**赤穂浪人の江戸急進派頭目として吉良邸討ち入りで「義を貫く」**

元禄14(1701)年3月14日、勅使鑑心使の浅野内匠頭長矩は指導役だった吉良上野介義央に江戸城松之廊下で刃傷に及び、浅野内匠頭は即日切腹、浅野家は改易の命が下る。

これを喧嘩面成敗の仕来りに習わぬ裁定として、取り潰し後の赤穂藩浪人47名は元禄15(1702)年12月14日、本所松坂町の吉良邸に討ち入り、吉良を討った。翌2月4日、安兵衛は名誉の切腹、享年34だった。

# 武庸会(たけつねかい)は堀部安兵衛の顕彰団体

四十七士の一人、新発田生まれの堀部安兵衛武庸を顕彰する武庸会(たけつねかい)は明治45(1912)年、新発田町の有志、富田精策・上野喜永次・高橋誠一郎・土田亦次郎らが相集って堀部安兵衛の顕彰碑を生家菩提寺の長徳寺に建立する計画を進めていたのが創設のきっかけだ。

人気絶頂の桃中軒雲右衛門の義士像寄贈が設立に拍車をかけた。

その5月、義士銘々伝で人気絶頂の浪曲師・桃中軒雲右衛門が新発田を訪れ、石碑建立の話に感激し、義士の木像寄贈を申し出た。そして12月14日に武庸会の発足を決議し、翌天正2(1913)年2月4日に武庸会は発足した。なお、中央義士会の創設は大正5年。

同年4月10日、木像は新発田



**たけつねかい 武庸会の新役員**

会長	高橋正明
副会長	石川富夫
副会長	長谷川敏敏
副会長	大滝俊雄
顧問	嶋谷次郎八

なお武庸は安兵衛の本名だ。

「旬」を生かして 割烹 **志まや**

新発田市御幸町1丁目1の1 ☎(0254)22-2102(代)

**堀部安兵衛** 生誕350年 記念出版

もりいくすお漫画 『熱血 堀部安兵衛物語』 (A4・36頁) 1,000円+税

富澤信明論文集 『実録 堀部安兵衛』 (A5・360頁) 2,000円+税

一系図から読み解く 忠臣蔵一

発売所 高木書店 〒957-0052 新発田市大手町 1-2-13 ☎0254(22)3241

新発田市観光協会 〒957-0055 新発田市諏訪町 1-2-11 ☎0254(26)6789

**武庸会に入会なさいませんか?**

以下ご記入の上、年会費 3,000円をお振込ください。

氏名 \_\_\_\_\_

〒 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_

堀部安兵衛の顕彰事業のほか、安兵衛関連出版事業や安兵衛 & 四十七士および忠臣蔵ゆかりの地への旅など楽しい企画を実施しています。

年会費振込先

新発田信用金庫 本店  
普通口座 0446278  
口座名 タケツネカイ

問い合わせ先 武庸会事務局  
新発田市観光協会内 TEL.0254-26-6789 FAX.0254-26-5031